

# 一円への挑戦

—ひのきの里の意識革命—

収入対策プロジェクトチーム

上松・経理課会計係 青木 傳吉

事業課生産係 清水 庄助

## 要 旨

いまの国有林財政を考えると、職員全体の意識改革が必要であり、あえてひのきの里の、副産物による一円収入の確保に挑戦した。

実行結果として、技術開発委員会の中に収入対策部会を設け、対象物件と製作、販売方法を検討し、実行はプロジェクトチームを中心に目標をかかげことに当った。

この推進には、安全と平常業務に影響させない、二つの基本があった。

結果は、目標額を大きく超える成果を得ると共に、一円の収入の大切さが職場に広がった。

## はじめに

昭和59年度決算で、国有林野事業は878億円の損失という厳しい状況の中で、当、上松営林署は21億円の純益を掲げた。これは、全職員が一体となって努力したことはもとより、木材の干様、木曾ひのきに負うところが大きい。

こうした恵まれた職場では一本伐れば何百万円の収入につながり、副産物による一円、一円の収入は度外視されがちである。しかし、いまの国有林野事業の厳しい財政を考えると、貴重で高価な木曾ひのきに甘んずることなく、発想の転換を図って副産物等による収入確保につとめ、一円の積み重ねでいいから実行すべきではないか。また、こうした活動によって職場全体の意識改革につながり、ひいては国有林野全体にそれが広がるのではないか、という考えに立って、「一円への挑戦」と銘打って実行に移した。

## I 実施経過

昭和59年4月、技術開発委員会のなかに主とし副産物等による収入確保を図るべく、「収入対策部会」が設置された。経理課長をアドバイザーとし処分係長（60年度より会計係長）を部会長として部員8名から成り、二ケ年で大方の結論を出すべく決定された。

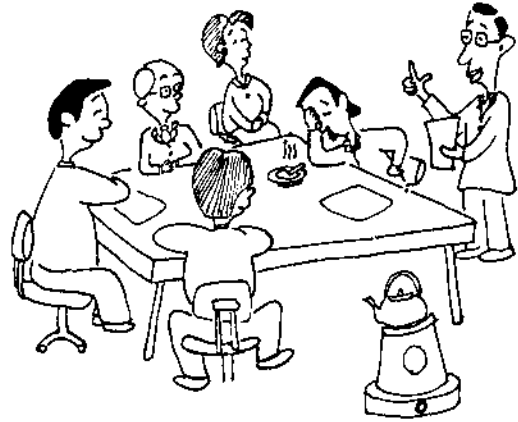
部会は、「出すならアイデア」をモットーに協議を重ねられ、まず当署管内で収入につながる産物及び産物以外の項目を、現実には可能であるとか、ないとかは別として部会全員で出し合うことにした。

その結果、部会に集った品目及び項目は表-1の25項目であった。

カモシカの肉・皮を活用して収入の一助にする案もいまでは夢でない話となった。国有林から流れ出るきれいな水も、その利用によって多大な恩恵を受ける下流市町村に、造林負担金を果すべきだ、という話も、いまでは中央において水源税となって話題になっている。また、赤沢自然休養村内の森林鉄道運転も、巨額の投資が必要であるが、構想は壮大であり観光資源としては全国的に人気をよび



図-1 部会心得



- 1. 安全に注意
- 2. 業務に支障ないか

図-2 技術開発委員会収入対策部会検討会

表-1 技術開発委員会収入対策部会収入確保のための検討結果

産 物	産 物 以 外
1. コウヤマキの枝葉	1. 盤台あとでカブト虫の養殖
2. カモシカ	2. 木炭焼
3. クロモジ	3. 赤沢駐車場料金の改訂
4. 水 苔	4. 赤沢自然休養林の入園料徴収
5. 打出木	5. 赤沢駐車場付近にテニスコートを作る
6. 石	6. " 内に直営売店を作設し産物を売払う
7. 水	7. 木曾五木の寄せ植え
8. 根上り木	8. 薬草の栽培
9. 笹	9. 赤沢自然休養林内の林鉄運転
10. ベニマンサク	10. 椎茸・ナメコの栽培
11. 根 株	11. 国有林野の活用(貸付)
12. 杖	
13. 花 台	
14. 壁 掛	

得る案件であろう。

いずれにしても、この25項目のなかから実行に移すべき品目について検討を重ね、その実行体制と

して「収入対策プロジェクトチーム」の編成を行った。

表-2 上松営林署収入対策プロジェクトチーム

1. 目的	主として、副産物の収入確保を図るための施策を積極的かつ効果的に推進する。
2. 組織	(1) 委員長 次長 (2) 副委員長 経理課長 (3) 委員 会計、経理、造林、機械係長及び各課代表1名ならびに委員長が指名する者。
3. 業務内容	(1) 副産物等の採取、製作に関すること。 (2) 即売会等での販売に関すること。 (3) 産物の普及宣伝及び販路開拓に関すること。 (4) 森林組合との連携に関すること。 (5) その他収入確保に関すること。
4. 事務局	プロジェクトチームに関する事務は、経理課会計係長が統括する。

いわゆる59年度は、「技術開発委員会」→「収入対策部会」→「収入対策プロジェクトチーム」と三段階の体制づくりであり、みんなでチエを出し合った計画の年であった。

従って、60年度は、採取から製作、販売の年になり、その結果は表-3のとおりである。

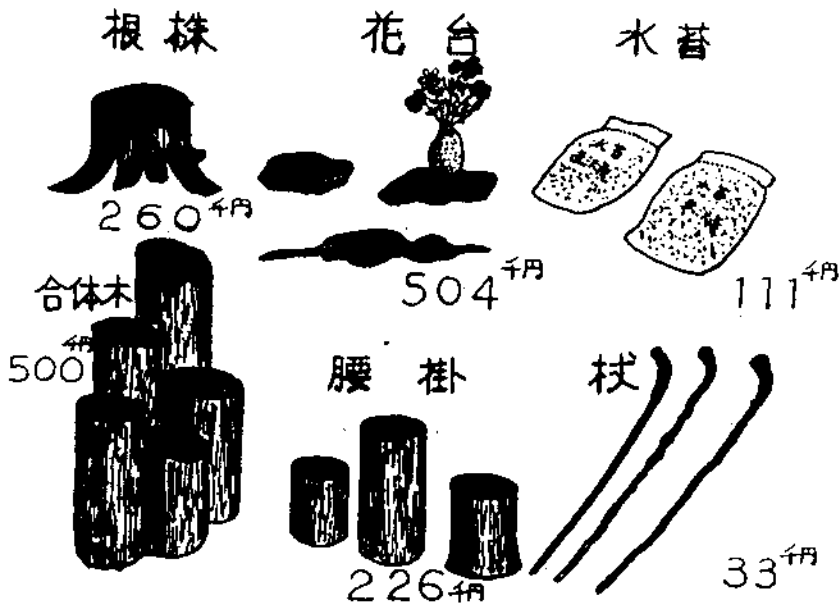


図-3 副産物の種類

表-3 副産物等の販売結果

品 目 即売ヶ所	根株	花台	腰掛	水苔	杖	飾物	アカシ	その他	金額
	教量 金額	数量 金額	数量 金額	数量 金額	数量 金額	数量 金額	数量 金額	数量 金額	
木工品等即売会 4.28～29 (長野市)		1 15	1 10						25
森 林 の 市 5.18～19 (東 京)				180 72					72
木曾産業物産展 6.4～5 (上 松)		14 43	19 26	44 13			178 16		98
木 材 祭 8.3 (上 松)		25 189	5 8	16 5	50 15		41 3		220
信州グリーンフェスティバル 9.27～29 (長野市)	2 500	13 130	32 33	25 10	18 6	3 6			685
フオレスポ'85 10.12～13 (東 京)		6 45	5 6	7 3	8 3	3 6			63
全国森林浴俳句大会 10.13～14 (赤 沢)		26 42	25 29	10 3	20 6	4 4			84
高品質材等展示会 10.20 (松本市)		11 40	1 7	14 5	6 3	2 4	薪(2070束)414 ホダ木(510本)51 除伐木(300本)45		59
上 松 営 林 署 (本署・駐車場)	31 260		186 107				ベニマンサク (153本)197 転石(100m <sup>3</sup> )20		1,094
計	33 760	96 504	274 226	296 111	102 33	12 20	219 19	727	2,400

収入対策プロジェクトチームの活動に当って、大前提となるべき次の二つが決定された。その二つとは、

- ◎ 安全に注意して絶対にケガを出さない。
- ◎ 平常業務には支障をきたさない。

この二点であった。ささやかな収入対策であるが、この二つが満たされてはじめてその意義があるというものである。

### 1. 品目の内容

(1) 「根株」は、製品生産のなかで根上がり等で地上部分の材積のあるものは積極的に生産することになっているが、その利用価値には、材積と形状の二つに大別され、従って販売にもその点で難しいものがある。

一つの例を示せば、0.3 m<sup>3</sup>の根株が、形状価値が高く10万円で買い取られ、m<sup>3</sup>当り32.8万円となるのである。



図-4 重かった伐根の背負い出し

(2) 「花台」は、主として根上りのタコ足部分を輪切りにしたものであり、大きいものでは、根株を直接輪切りにしたのもあったが、この切取った資材を林道まで背負い出しが苦勞の一つである。

資材を署の作業小屋へ運び入れると次は、皮をむき、カンナ掛けである。この作業は誰にでも簡単に出来る仕事で庁内取員は暇をみての手伝いをしてくれたので助かった。

花台製作で最大の難関は、日割れ防止対策である。保管場所も、風当りのないそして直射日光の当たらない、しかも気温の変化の少ない場所が必要である。それでいて永い日数はむりであり、カンナ掛けまでの作業を早く終え、日割れ防止剤を塗らなくてはならないのである。



花台づくり



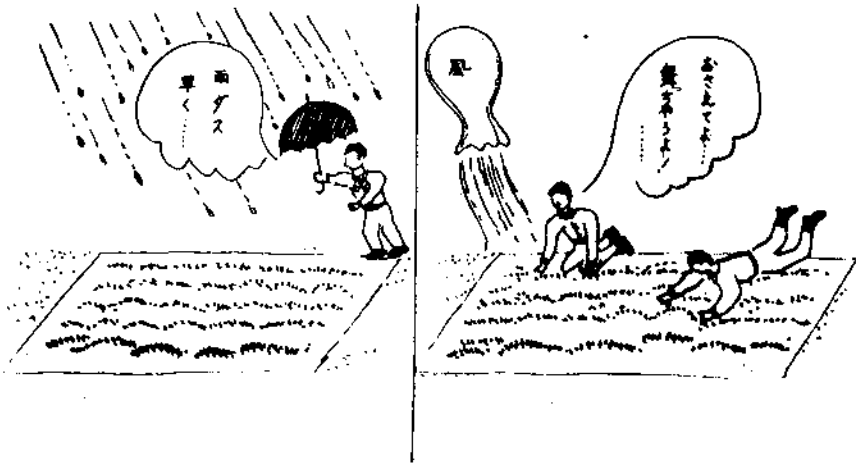
図-6 花台のヒビ割れ防止

図-5 真夏のカンナかけ

(3) 「腰掛」は、製作工程が最も簡単で、しかも資材は生産事業地の盤台に放置され山積みとなる人工林の曲り部分を打出したものである。

これを署に運び中庭が作業場である。上下をチェーンソーで平行に切り落し、上の部分にカンナ掛けをして回りの皮を整えれば仕上がりである。長さは原木によって、10cm～50cm位でまちまちであるが利用も腰掛けの外に、物置き台とか、あるいは盆栽を飾る台とかである。

(4) 水苔は、山で採取したものを署に運び、シートに広げてゴミ取りと乾燥である。いい天気



図一七 苦勞した水苔の乾燥



図一八 知恵を出し合って

続けば簡単であるがそうはうまくいかないもので、雨だ、風だと言っては皆んなの手を借りての子守りである。それをビニール袋50g入りとして商品完成である。

(5) 「杖」は、天然ヒノキ林に繁茂する下層木で、径2cm前後のヒバの利用である。同じ箇所でも、3百本伐ってもどこで採取したか判らないほどの繁茂であり、資材にはこと欠かないが、通直で綺麗な肌をした物は意外に少ない。

皮むきも、春から初夏の時期ならきれいにしかも簡単にむけるが、夏の終わりからでは煮てむくしか方法はないのである。昨年は、出品する即売会場も急に決まり、在庫も持ち合せないために時期はずれの皮むきに苦労した。今年は、年間販売数量分を春のうちに急がなくてはいけないと思っている。

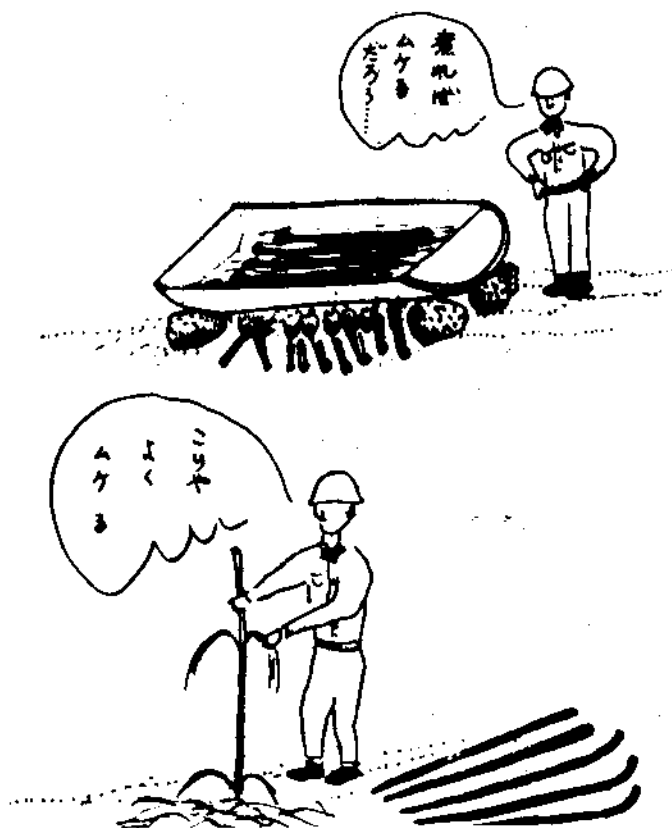


図-9 煮てむいたヒバの杖

(6) 「飾物」は、特定の商品でなく、山を歩いていて変わった形の木片を、置物とか、一輪ざしとか、壁掛け等に造ったものであり、

「アカシ」は、主にお盆行事用の松明である。

その他、薪、シイタケのホダ木、農業用への除伐木、ベニマンサク等が収入対策プロジェクトチームの扱い商品であった。

## 2. 製作経費

こうして、素人独自の製作方法を続けたのであるが、それに要した経費は次表のとおりである。

表-4 製作に要した経費

種目	区分	金額	摘要
物品代		46,045	ボンド、外
超勤		40,850	木材祭
旅費		49,140	延78人
その他		20,000	光熱費等
計		156,035	

物品代の主なものは、日割れ防止剤のボンドの外、カンナ刃、塗料、皮むきに使うハンマー等である。

超勤手当とは、夜店の即売会に参加したためであり、旅費は、山へ資材集めその他調査に出掛けた延78人分の日額旅費である。

その他の経費は、製作機械の電気料と、チェーンソーの燃料を計算した。



図-10 夜店の即売会



### 3. 販売について

販売方法は、即売会に積極的に参加して売ったものと、署独自で販売したものとの二つに大別できる。即売会の会場は、表-3で示したとおりであるが、そのうち東京、長野、松本は商品を送り届け営林局を通じて販売したものであり、その他は、直接参加の販売である。



おじいちゃんおばあちゃんへのプレゼント  
子供たちに大好評

図-11 ヒバの杖

即売会に参加して感じたことは、その場所、その時どきでお客様の反応はいろいろあるということである。アカシに人気のあった6月の木曾産業物産展、花台と、お年寄のお土産にと買ってくれた杖に人気のあった夜の木材祭、あるいは、ペリカン便と提携した赤沢全国森林浴俳句大会の腰掛等である。



図-12 日通ペリカン便との提携

また、私たちは即売会の際には常に、分収育林のPRと、緑の相談室を設け国有林の説明につとめてきたが、分収育林の契約もこのなかから生れたもう一つの収穫であった。

わが署においても、一署一品運動の目標をかかげてきたが、その予定額を大幅に上回る成果を得ることができた。しかしこれにも増して最大の成果は、トップから現場職員までの多くの職員が、この

国有林の財政危機のとき、一円の入りの大切さを知り、いま我々は何をなすべきかの共通の認識をもった“ひのきの里での意識改革”であった。



図-13 出張帰りの土産  
……手ぶらでは山から帰ってこない……



図-14 現場職員の待ち時間での製品の製作

II 今後の取組み

61年度は、こうした活動をさらに推進し、収入確保を図ることとするが、今までの活動の反省と検討の結果、これからの取組みとして次のことを積極的に進めたい。

表-5 これからの取組み

- 1…他署との連携
- 2…森林組合との連携
- 3…事業（生産・造林）との連携
- 4…即売会への積極的参加（国有林分収育林のPR）
- 5…61年度目標（対前年 200%）
- 6…より積極的な一円への挑戦
- 7…全国規模での一円一円運動の提唱

おわりに

全署員が一丸となって取組んだ“意識革命”であったが、こうしたことがこれからの国有林には必要であり、我々の今後の努力はもちろんのこと、皆さん方の御協力をお願いしたい。